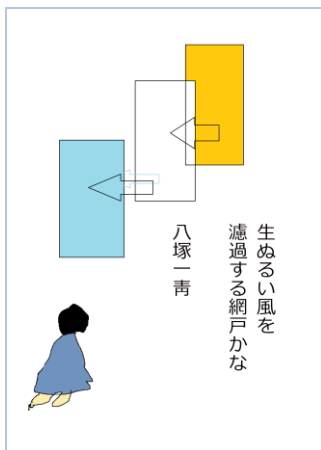




## 逃水に正面あるや背ばかり

峰崎成規

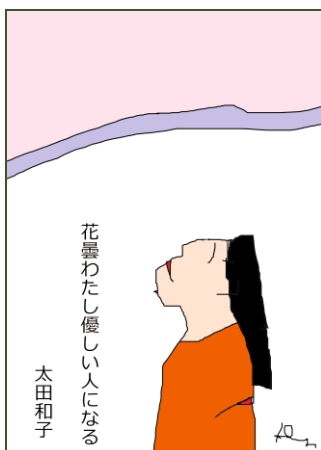
逃げ水を前から見たことはない。逃げ水と言うからには、やはり背面だろう。もし「追いかけられ水」なら、正面ばかりで背中は見れない。



## 生ぬるい風を濾過する網戸かな

八塚一青

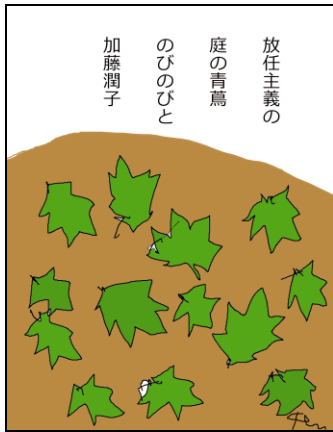
網戸は夏の季語。生ぬるい風を濾過とは新製品を思わせるが、そこは詩の世界。網戸が風を濾過してくれていたとは、まさに新発見である。



## 花曇わたし優しい人になる

太田和子

花曇りは、花時の曇り空。寒くもなく暑過ぎることもなく過ごしやすい頃である。日射しも弱く景色もぼんやりして見え過ぎないのいいね。



## 放任主義の庭の青鳶のびのびと

加藤潤子

青鳶の生命力は凄いね。ちょっとよそ見してる間にぐんと成長するからね。庭の青鳶が伸び放題になっている家は、子どもものびのび育っているね。



## よく伸びる腕よ蕨へっぺっぺと

浜田イツミ

写生句として良くできている。自分の腕を別人の腕のように客観的に観察しているところがいいね。蕨の生えているところを視野に捉えてもいる。



## ガラスコップの影透き通る聖五月

桑田愛子

コップの影が透き通るなんて、一瞬ホントかなと思わせてやはりホントだと納得するまでの時間が楽しい。季語も句の内容によく合っている。